



[審査証明番号/有効期限]	BCJ-審査証明-82/2030年9月13日
[技術の名称]	建築物の外壁補修技術「コンスネット工法」
[依頼者(審査証明取得者)]	株式会社 コンステック、三菱ケミカルインフラテック株式会社

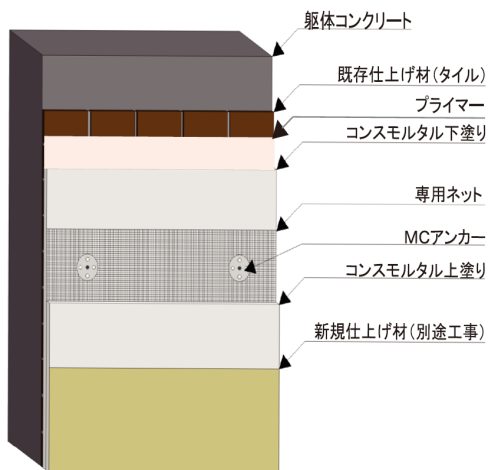
### 【技術概要】

本技術は、「剥落防止技術」及び「再改修技術」からなる。

剥落防止技術は、現場打ちコンクリート壁体を下地とする既存仕上層の上に、一材形ポリマーセメントモルタルを用いて専用ネットを挟み込んだ複合改修層を形成し、ステンレス製アンカーピンで壁体と一体化させることによって、タイルやモルタルなどの既存仕上層の剥落を防止する補修技術である。

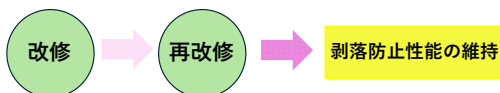
再改修技術は、経年後の複合改修層に対してメンテナンス層（複合改修層の上に重ねて施工する層でありプライマー・主材・トップコートで構成される防水層）を形成することで、剥落防止性能の維持及び防水性を付与する技術である。

### 【構成図】



### 【施工後の維持管理】

点検および改修により剥落防止性能を維持



#### 〈維持管理項目〉

- ・点検（5年・10年）  
既存改修面の現地調査
- ・不具合修繕  
現地調査結果に基づく部分的な修繕
- ・全面改修  
メンテナンス層の形成・仕上げ材の塗替え

### 【開発の趣旨】

既存建築物のコンクリート壁体を下地とする既存仕上層を、複合改修層で保護被覆することによって、既存仕上層の剥落を防止し、剥落に伴う人的災害の防止及び建築物の維持保全を図る。並びに複合改修層で使用するセメント系材料を一材形とし、廃缶・廃液の廃棄物量を低く抑えることで、環境負荷の軽減に寄与することを目的として開発した。

### 【開発目標及び審査証明結果】

本技術について、前記の開発の趣旨及び開発の目標に照らして審査された結果は、以下のとおりである。

- (1) 複合改修層は、既存仕上層に対して付着強さ  $0.4\text{N/mm}^2$  以上を保持しているものと判断される。
- (2) 温冷・乾湿の繰返しによって、複合改修層は付着強さが低下したりひび割れを生じたりすることはなく、また新規仕上層に浮きやひび割れが発生しにくいものと判断される。
- (3) 外壁に作用する風圧力や地震力に対して、設計本数のステンレス製アンカーピンを下地コンクリートに  $20\text{mm}$  以上打ち込むことで、既存仕上層や複合改修層に剥落を生じさせないものと判断される。
- (4) 既存仕上層を残すことにより、モルタル塗替え工法に比べて、廃材の発生を抑制し、工期の短縮を図れ、一材形の材料を使用して廃棄物を二材形ピンネット工法より低減させることができると判断される。
- (5) メンテナンス層（複合改修層の上に重ねて施工する層でありプライマー・主材・トップコートで構成される防水層）は、経年後の複合改修層の保護性能及び防水性能を有しているものと判断される。
- (6) 本工法を適切に施工及び維持するために、適切な体制及び施工マニュアルが確立しているものと判断される。

### 【本技術の問い合わせ先】

株式会社 コンステック

ソリューション本部 工法材料技術部

TEL: 03-6450-0634

FAX: 03-6450-0635

MAIL: info@constec.co.jp



### 技術紹介サイト

<https://www.constec.co.jp/technology/6303>